

バルク貯槽明細書(地上設置)

(貯蔵能力が5,000kgを超え1,000kg未満のもの)

- 1 液化石油ガス設備工事を行った事業所の名称
- 2 液化石油ガス設備工事に従事した液化石油ガス設備士の氏名等
設備士の氏名：
免状番号：
直近の設備士講習受講年月日
(免状交付を受けてから第1回講習期限に至っておらず、講習を受講していない者にあつては免状交付年月日)
講習受講 免状取得 年 月 日

3 設備の所有者又は占有者の氏名又は名称

4 設備の所在地

5 当該設備の使用目的

6 貯蔵設備の貯蔵能力
バルク貯槽： kg × 基 = kg

7 供給設備の技術上の基準に対応する事項
イ バルク貯槽の特定設備検査合格証 ~ 別紙のとおり

ロ 設備距離

最も近い第一種保安物件までの距離

保安物件の名称：

第一種施設距離 実際距離： m (法定距離：1.5m)

最も近い第二種保安物件までの距離

保安物件の名称：

第二種施設距離 実際距離： m (法定距離：1.0m)

施設距離の不足に対する構造壁の必要性： 有 無

ハ 構造壁等

有(構造は以下のとおり) 無

構造壁の方向： 方向に設置(法定：2方向以内)

L Pガスの供給を受ける消費設備が設置されている建築物の外壁が当該構造壁に該当(当該建築物の壁が建築基準法上の耐火構造となっている。)

加熱試験に合格する独立した構造壁を設置

構造壁の寸法

1方向の場合：幅 m(法定：バルク貯槽の幅+2m以上)、

高さ m(法定：地盤面からのバルク貯槽の高さ+1m以上)

2方向の場合：幅 m(法定：バルク貯槽の幅+2m以上。ただし他の構造壁等と接する部分を除く)

高さ m(法定：地盤面からのバルク貯槽の高さ+1m以上)

構造壁の下部は地盤面に接し、開口部はないこと。

二 安全装置（バルク供給・充てん設備告示の基準に適合）

次の機器を設置しており、全て高圧ガス設備試験合格品又は大臣認定品である。 - 別紙のとおり

安全弁

液面計（ガラス管液面計を除く）

過充てん防止装置

カップリング用液流出防止装置を取り付けた液取入弁

ガス取出弁（ガス放出防止器取り付け 緊急遮断装置取り付け）

液取出弁（ガス放出防止器取り付け、緊急遮断装置取り付け、当該液取出弁は供給管等に接続していないためガス放出防止器又は緊急遮断装置は取り付けしていない）

先端にカップリングを取り付けた均圧弁 均圧弁は未設置

上記の機器は、ふた付きプロテクターで保護している

ホ プロテクター内に設けるガス漏れ検知器等

検知器の設置

設置： 常時監視システムと接続している 常時監視システムと接続していない

未設置

検知器を常時監視システムと接続していない又は検知器未設置の場合の周囲の状況

バルク貯槽の外面から水平3方向の周囲4m以内に高さ1.5m以上の構築物その他漏えいしたLPガスの拡散をさえぎるものはない（最も近い高さ1.5m以上の構築物等までの距離： m）

ヘ バルク貯槽と調整器の間で液状の液化石油ガスが滞留しにくい措置

措置内容： 単段減圧式調整器をプロテクター内に設置

二段減圧式一体型調整器をバルク貯槽の直近に設置

二段減圧式分離型調整器の一次側調整器をプロテクター内に設置

ト 設置方法等

次の方法により設置している

バルク貯槽の基礎の高さ：地盤面から cm（法定：地盤面から5cm以上）

自動車等車両が接触しない措置： 保護柵を設置 縁石を設置 その他（ ）

支柱又はサドル等と基礎との固定方法： で固定

大地との電気的接続措置

貯槽と大地とが絶縁されている 貯槽と大地とは絶縁されていない

大地との電気的接続措置の方法：

参考：コンクリートは電導性を有し電気的接続となるが、その上にアスファルトやゴム等を敷くと絶縁となるので電気的接続措置が必要。

安全弁の放出管の設置方法

放出管の開口部の位置：開口部は上向きかつプロテクターの外で、バルク貯槽の頂部から cmの高さ(法定：10cm以上)

開口部の雨水侵入防止措置：

チ 火気等との距離

屋外の火気等の有無

有 無

火気等の種類：

火気等までの距離： m

火気等との距離が2m以上ない場合の隔壁（漏えいしたLPガスが火気の方に流動することをさえぎる措置）

材料：

高さ： m

幅： m

リ 警戒標

表示位置： バルク貯槽 その他（ ）

表示内容

・液化石油ガス又はLPガス（朱書）： 力所

・火気厳禁（朱書）： 力所

・緊急連絡先： 力所

表示内容：(名称)

(電話番号)

ヌ バルク貯槽の腐食防止措置

措置内容：

ル 底部の腐食及び転倒防止措置

支柱取り付け サドル取り付け